

農業委員会等に関する法律(昭和26年法律第88号)第19条第2項及び同法施行規則(昭和26年農林省令第23号)第12条第1項第2号の規定に基づき、受付期間の終了時点(令和7年12月25日時点)における吉岡町農地利用最適化推進委員の推薦及び公募状況を以下のとおり公表します。

【受付人数】

	区分	小倉・上野田	下野田・北下	南下・陣場	大久保・漆原
1	推薦を受けた者 (個人推薦又は法人・団体推薦)				
2	自ら応募したもの	2人	2人	1人	2人
	合計	2人	2人	1人	2人

【推薦・公募の状況】

(1) 推薦による応募(個人推薦又は法人・団体推薦)

番号	被推薦者(推薦を受ける者)						推薦者 (推薦する者)	推薦内容										
	氏名	性別	年齢	職業	経歴			農業経営 の状況	担当する区域	(個人)			(法人・団体)			農業委員への 推薦又は応募 の状況	推薦理由	
					年月日	職名・役職等				性別	年齢	職業	代表者又 は管理人 の氏名	目的	①構成員の数 ②構成員たる資格その他の 当該推薦をする者の性格を 明らかにする事項			

(2) 自ら応募

番号	氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営 の状況	応募理由						担当する区域	農業委員 への推薦 又は応募 の状況
					年月日	職名・役職等									
1	原沢 栄	男	67	農業兼業	令和5年4月27~	吉岡町農地利用最適化推進委員	田100貸出中畑40 野菜	吉岡町も都市化が進み、日本の農地の姿がなくなりつつあります。少しでも豊かな日本の農業を守りたい為に応募しました。						小倉・上野田	なし
2	木暮 均	男	70	農業	—	—	米・野菜 25a	自宅周辺でも、年々遊休農地が増えている様に思います。農業委員の方と密接に連携し、地域農業の維持・発展に尽力していきたいと思います。						下野田・北下	なし
3	松岡 章子	女	65	農業兼業	—	—	ブロックリー3反、稲作5反、その他野菜	今まででは、保健師・養護教諭とフルタイムの仕事をしており、地域活動に眼を向けることはできませんでしたが、昨年頃よりフルタイムの仕事から月に1回~2回程度の非常勤職員に変わり、時間的余裕もできるようになりました。そのため、稲作や野菜作りにも今まで以上に積極的に関わることができます。農業への関心も深まっているところです。また、現役のうちに地域への貢献をしたいと思い応募いたしました。						大久保・漆原	なし
4	森田 利夫	男	70	農業兼業	令和2年4月27~ 令和5年4月26日	吉岡町農地利用最適化推進委員	田50a(コシヒカリ・ゆうだい21)、畑20a(トマト・ナス・ピーマン・キュウリ・サツマイモ・白大豆)	休耕した畠の草木が目立ち、このままだと復活できないと思い応募しました。先日、県庁主催の休耕地農場を復活させた事例を視察してきました。就農者の地道な努力と、地域の方々の協力で、見事有機TSAを取得し定着させて、県内の各所に推進しています。吉岡町で推進できる農業を考え、農業が再び復活するように活動ていきたいと思います。						小倉・上野田	なし

5	野村 正幸	男	64	会社員	—	—	田1,500m <sup>2</sup> 畑500m <sup>2</sup>	吉岡町は、前橋・高崎地域のベッドタウン化が進み、各種企業の進出が顕著に見受けられ、農地の減少、耕作放棄地が散見される。また、農業従事者の高齢化、担い手が減少している状況であり、どのようにして農地を守り、農業従事者を維持できるかが重要と考える。今後の吉岡町、地元地域の農業発展のため、今回、農地利用最適化推進委員に応募しました。	南下・陣場	なし
6	大井 隆雄	男	69	農業	—	—	米40a 野菜10a	農地の遊休化や担い手不足が進む中、地域農業を守るためにには、現状を正しく把握し、関係者の意見を調整する役割が重要と感じ応募した。農地の有効活用と円滑な利用・調整に貢献したいと考えています。	下野田・北下	なし
7	壁田 智香子	女	65	主婦	令和5年～7年	母子保健推進員	田12a、畑(自家消費のみ)	義父母から受けついだ田畠を、荒廃させたくないという気持ちだけで稲作・畑作を続けてきました。次の世代に、より良い未来を残せるよう今後の農業のあり方と一緒に考えていきたいと思います。	大久保・漆原	なし